

平成 29 年 4 月 23 日(日)

(第 41 号)

ワンネット通信

NPO ワンストップリーガルネット

発 信 者 理事長 大内田 治男

E-mail ouchidaoffice@kce.biglobe.ne.jp

電 話 0942-39-0926 FAX 0942-31-5336

「2050年の農業へ」

福岡県議会議員 中村 誠治

(ワンネット賛助会員)

わが国の食糧自給率は39%である。そして、それを生産している現在の農業就業人口は約280万人で、昭和35年当時の2割にも満たっていない。

農地といえば約450万haで、同様にピーク時の74%までに落ち込んでいる。それだけではない。耕作放棄地43万haは農地面積内に入っているから、実質は400万haそこそこである。そのような状況から農業は斜陽産業で、3K（きつい、汚い、危険）の代表選手のように言われ続けてきたが、2050年代に入ると、農業の価値観は一変していると私は考えている。

近年の異常気象や天災などによる一時的な食糧不足だけでなく、地球人口の爆発的増加で、世界中が慢性的な食糧不足になるとFAO（国連食糧農業機関）が警鐘を鳴らしている。

現在の世界人口は73億人で、このまま推移すれば、2050年には97億人になり、地球の限界扶養力100億人に近づく。現在の73億人でさえ、世界は8人に1人が慢性的栄養不足の飢餓状況におかれているなかで、100億人の食糧を支え、増産できる土地や水がこの地球上には無いのである。

人口の増加に伴い食糧の需要と供給のバランスが崩れ始めると、食糧の価格は高騰し、手に入らない作物が増えていく。やがて慢性的な不足に陥れば戦乱に発展する。実際、18世紀のフランス革命も、2010年からアラブ世界で発生した民主化運動「アラブの春」も、パンの高騰、食糧価格高騰が起点となっている。

もはや、食糧が自由に手に入る時代は過ぎ去りつつあると言わざるを得ない。いや、食糧危機は既に始まっていると言った方が寧ろ正しく、実は2000年以降、世界の食糧市場で穀物価格は歴史的な高値をつけ、それ以降価格の下値は確実に上昇し続けている。

さあどうする、自給率39%の日本。どうして国民を養うつもりなのか。そんな問題が頭をもたげてくる。

特に、福岡県内最大の農業都市を自任する久留米市の農業は、気が気ではない。自任と責任は表裏一体だからである。

これから食糧危機時代を迎える久留米市農政に願うことは、食糧危機を現実的な問題として捉え、食糧を安定的に供給できる体制をどう作り上げていくか。またその構築に向けて国・県が成すべき課題や懸案をどう提示していくかにあると思う。

いずれにしても、2050年代からの農業のイニシアティブは、供給サイドの農家が握る。その時、久留米地域の農業が産業としても希望の的になっているよう、私は望んでいる。

ワンネット内部研修会①

ワンネット賛助会員である福岡県議会議員 中村 誠治氏は誰よりも故郷思いです。その彼はこの2年間、県議会において「住・ひと・しごと創生調査特別委員会」委員長の任にありました。一般的に言えば「地方創生の委員長」です。

激増する世界人口の中で、日本はこれまで経験したことの無い人口減少社会に突入しています。福岡県も、久留米も例外ではありません。どうすれば、地方再生は可能か。

そこで、彼がたどり着いたのが中国です。目の前に巨大なマーケットがあるではないか。その中国・江蘇省相手に、昨年から経済交流を実現しています。それも、地域同士の生活・庶民レベルの友好交流です。緑化木、ツツジ・ツバキの花木類、イチゴ・ブドウなどのフルーツと温泉、そして錦鯉、メディカルツーリズムと地域間経済を促進し、お互いの絆を築き上げていく試みです。

地域住民に対して総合的なリーガルサポートを行い、地域社会に寄与する目的で設立してワンネットは11年を迎えます。「久留米の真の価値は何か」。大局観に立って久留米のこれからを考えましょう。

日 時	7月1日(土) 14時~16時
会 場	久留米市市民活動サポートセンターみんくる(最大40人程度)
講 師	福岡県議会議員 中村 誠治氏
テーマ	中国・江蘇省との経済交流と久留米の潜在能力
対 象	ワンネット会員のための勉強会 このテーマに関心を持つ方、行政をはじめ関係者などにも参加を呼びかけましょう。

ワンネット内部研修「久保田園芸施設見学会」②

ワンネット創設者の一人である久保田 寿さんは、北野町でバジル、ミント、ルッコラなどハーブ類、水菜などを中心に 2 ヘクタールのハウス栽培を営む農業生産法人の代表者です。今回、久保田さんのご好意で施設見学会を企画しました。

- 日時** 5月11日(木) 13時～15時
会場 北野町、有限会社「久保田園芸」
対象 ワンネット会員のための勉強会
農業者、農業に関心を持つ方など。合計 20 人程度
内容 あらかじめ予約を取ります。希望者は5月10日(水) 16時までに栗林あて(090-1346-7115) お電話ください。
参加者は、できるだけ車の相乗りか電車(北野駅)でお願いします。



採れたてのハーブを出荷するため、調整作業に余念のない久保田園芸のみなさん方

「くるめフォーラム2017」報告①

行政書士 山浦 正敦

前回の古賀隆弘会員、平木会員に引き続き今回、私が久留米女性週間記念事業・男女平等社会づくり「くるめフォーラム2017」の実行委員にワンネットを代表して参加することになりました。今年のくるめフォーラムは、10月7日(土)・8日(日)に予定されています。

第1回実行委員会は、1月27日(金) 19時から、えーるピア久留米でありました。古賀隆弘会員のワンネット通信の報告でありましたように、最初から圧倒されました。参加人数は42人(女性38人、男性4人)で、男性として居心地の悪さを感じながら会議

に臨みました。会議は、実行委員長等の選出・前年度の反省会で決定したサブテーマについての話し合いが行われました。参加団体のフォーラムに向けての想いや男女平等社会についての意見等を熱く交わしながら約 2 時間。会議が終わった後の疲労感は、すごかったです。ただ、みなさんの男女平等についての想いや考え方が、たいへん勉強になりました。

第 2 回は、3 月 15 日（水）19 時から、えーるピア久留米でありました。この日は、4 つの部門（記念講演部門・映画部門・市民企画部門・展示バザ一部分）に分かれて、部門毎の話し合いでした。私は希望通り、映画部門に入ることができました。映画部門では、部門長等の選出・今年のフォーラムで上映する映画の候補等の話し合いが行われました。現在は、上映する映画の候補を試写し、意見交換をし、書面で取りまとめて候補を絞っています。

候補映画の試写は、くるめフォーラムに参加している団体の会員なら誰でも参加可能です。また、おすすめ映画（内容は 120 分以内のもの、上映権付き、字幕があるもの、男女平等が基本ですが、そのものずばりの映画は少ないので、性差別の視点や生き方等が触れられているもの）がありましたら、ぜひ教えてください。候補映画として提案させていただきます。

●平成 29 年 4 月の無料相談会

4 月 12 日（水）10 時 30 分から 15 時まで、「暮らしの無料相談会」、成年後見センター「みまもり処」を、その後引き続いて 1 時間ほど、反省会を市民活動サポートセンター「みんくる」の会議室で行いました。

相談員として、久留米公証役場の田村公証人と 21 人のワンネット会員（松枝、大内田、鹿子生、橋口、仲家、山浦、佐藤、立山、森、後藤、平木、森部、平野、寺田、坂井、古賀（隆）、田中、藤島、執行、神野、栗林）のみなさんでした。

相談に訪れた人は 29 人で相談件数は 23 件。相談内容は遺言・相続 11 件、成年後見 3 件、離婚 4 件、その他 5 件（工事現場での車両接触、定期預金の解約、離婚後の退職金、給与からの扶養外し、交通事故）でした。そのうちで継続しての相談は 6 件でした。

次回の相談会は 5 月 10 日（水）で、受け付け担当は、久保田会員と中村清子会員です。

4 月の公証業務相談は 4 月 19 日（水）で村上公証人と松枝会員、相談件数は「遺言」の 1 件でした。5 月の公証業務相談は 5 月 24 日（水）、田村公証人と藤島会員の担当となっていますので、よろしくお願い致します。

次回「ワンネット通信」は 5 月 21 日（日）の発行を予定しています。
みなさまからのお気軽なご寄稿、ご意見・ご感想をお待ちしております。